



整然として
清潔な鶏舎内
でした!

ここが
鶏舎です!

屋内で飼育されるので、外気の影響を受けにくく、もともと鳥インフルエンザ対策などによって管理体制が整っていたことが、放射能対策にも役立つことに。

屋内飼育だから放射能の影響も受けにくい。

Check3 環境の管理

屋内で飼育されるので、温度・光・換気のコントロールが容易な空間で、外気による放射能汚染の可能性が低い環境です。人の出入りも制限し、外から人が入る場合は専用の作業服を着用。のうで靴の消毒も行うなど管理体制も万全で、清掃も、毎日徹底的に行っています。

地下60mから汲み上げた井戸水を使用。

Check2 水の管理

ニワトリに与える水は、川の水などは使用せず、飲料水としての検査もクリアしている井戸水を利用。井戸から密閉状態で汲み上げられるため、人や外気に触れることなく鶏舎に供給されます。また、地下60mから採水しているので、地表に留まりやすいとされる放射性物質の影響を受けにくいのも特徴。モニタリング検査も、養鶏場ごとに月に一度実施しています。



水はこの黄色の装置によって鶏舎内を循環。地下60mから汲み上げられ、密閉状態で自動的に供給されるため、放射能の影響はほとんど受けません。

「ヨウ素131」「セシウム134」「セシウム137」は「検出せず」と書かれた検査結果報告書。

従業員の方も飲んでいる水なら安心ですね!

地中深くから汲み上げているんですね!



安心・安全でおいしい
「ふくしまの卵」をお届けします

生産現場では、ニワトリの飼育から卵のパック詰めまで、鳥インフルエンザやサルモネラ菌などの脅威にさらされているため、常に安全性に対する意識が高いのが特徴。その姿勢が、今回の放射能対策にも活かされています。

Start

これから、みんなが気になる「エサ」「水」「環境」、そして「検査」をチェックしていきます!

外気に触れずに鶏舎へ入荷するたびに検査も。

Check1 エサの管理

エサの輸入先例

- アメリカ...とうもろこしなど
- カナダ...小麦など
- ブラジル...大豆油かすなど

ほとんどが輸入原料で作られている飼料は、配合メーカーから安全宣言が出されているものだけを使用しています。専用トラックで養鶏場に運ばれ、サイロ(貯蓄庫)から鶏舎に直接供給。外気に触れないため、放射能汚染の心配はありません。もちろん、飼料が入荷するたびにモニタリング検査も実施。鶏舎ごとに行っているため、さかのぼった情報の追跡が容易です。

確かな環境で飼育。自主検査もスタート。卵は、栄養価も高く手ごろな値段で、さまざまな料理レパートリーに欠かせない食材。けれど、福島第一原発の事故以来、なんとなく、ふくしまの卵に不安を感じる人も多いのではないのでしょうか。実は、福島県下の養鶏場はすべて屋内飼育され、与えるエサや水も外気に触れないよう徹底管理しているため、放射能の影響を受けることはほとんどありません。また、放射性物質に関するモニタリング検査は福島県でも行っていますが、10月からは福島県養鶏協会も自主的に検査をスタート。協会に属する福島県全域の養鶏場を対象に、定期的に検査を実施し、これまで「エサ」「水」「卵」に至るまで、放射性物質は一度も検出されていません。今回は、そんな安心を肌で感じるために、食への関心が高い鹿島絵里さんと小林佳奈さんが、福島県の養鶏場「アグリテクノ」とモニタリング検査を担当する民間の研究機関「ビービーキューシー」研究所を訪問。ふくしまの卵が、どのような飼育環境・管理の元で作られるのか、厳しい目でチェックしてきました。



海外から船で運ばれた原料を配合メーカーで配合し、専用トラックで養鶏場のサイロに直接入荷。すべて機械で自動的に行っているため、外気にも人にも触れることはありません。

だから、汚染の心配がないのですね!



ニワトリのエサの安全性などについてお話を伺った、アグリテクノの田中八百蔵さん(左)と奥田久さん(右)。

Goal

ふくしまの卵は安心していただけます!



見学後

和牛のセシウム汚染問題があったので、卵についても少し心配していました。ニワトリがしっかりと管理と環境で育てられているのを確認できて、とても安心しました。これからは、ふくしまの卵を安心していただけますね。

地元福島県に拠点を構える民間研究所が、福島県養鶏協会に属する18の養鶏場のモニタリング検査を一手に引き受け、定期的に実施。対象は、「エサ」「水」「卵」で、これまでいづれの検査でも放射性物質は検出されていません。情報の信頼性を高めるため、暫定規制値にしがらみなく、放射線測定装置の検出限界(15〜30ベクレル/kg)を示したうえで詳細なデータを公開。検査後すぐにホームページにアップし、リアルタイムで消費者が確認できるようにしています。

エサ、水、卵などから放出される「ヨウ素131」「セシウム134」「セシウム137」の放射線濃度を分別して測定する放射線測定装置。

1週間に一度、鶏舎ごとに検査するようにしています。



モニタリング検査について詳しく説明してくれた、ビービーキューシー研究所の加藤宏光先生。



モニタリング検査の結果の詳細は、協会ホームページまで。
www.fukushimaken-youkei-kyokai.org/

提供/福島県養鶏協会

私たちが行ってきました

(左)小林佳奈さん (右)鹿島絵里さん

料理好きな小林さんと、食材の安全性に関する鹿島さん。卵は毎日のように食べる食材だから、ぜひ自分の目で直に確かめてみたいと、今回現地を訪ねてみることに。



現地訪問で、私たちの不安解消!

徹底管理&検査を行う

ふくしまの卵の

安心が見えました!

福島第一原発事故により、放射能の影響が心配される福島県産の食品ですが、情報不足のために、風評被害を招いていることも少なくありません。そこで今回は、安全への取り組みを積極的に行うふくしまの卵の現場を訪問!